

「新臨床内科学」

—改訂第2版—

〔編集〕 阿 部 正 和 日野原 重 明
 本 間 日 臣 岡 部 治 弥
 田 崎 義 昭 高 久 史 磨
〔執筆〕 専門医 143 氏分担執筆

東京医科歯科大学教授

武 内 重 五 郎

「新臨床内科学」の第2版（改訂版）が出た。編者も述べておられるように、本書の初版は文字通り“爆発的”な売れゆきをみせたようであり、私どもの大学の学生もほとんど全員が持っている。臨床講義のときあるいは外来でのポリクリのさいなどに、座右の書として愛用されており、卒業試験や医師国家試験の最終のまとめのときにも大いに役立っているようである。

内科学の領域において取り扱われる疾患の数はきわめて多く、そのなかのどの疾患に、どれ位のスペースを与えて各執筆者にまとめてもらうかを決めるのは編者の腕のみせどころである。

私どもが学生時代の臨床講義では、頻度の多い疾患よりは、むしろ珍らしい、症例報告的な症例がとりあげられる傾向が顕著であった。卒前の臨床教育の理念は臨床医学の基本的知識を養うことにあるが、その理念からすれば、珍らしいというこ

とのみである症例をとりあげるということは不適当といわねばならない。むしろ、卒前教育においては頻度の多い疾患に重点がおかれるべきであり、また頻度の少ない疾患は、それが珍らしいということではなく、たとえ珍らしい疾患でも、その疾患を理解することがある臓器系の病態生理全般を理解するうえに重要であるという場合に十分な時間ないスペースを与えるべきであろう。現在の医師国家試験出題の基本方針もここにおかれている。本書は、初版においてもこの点に細心の注意が払われていたが、今回の改訂にさいしては、各疾患に割りあてられたスペースは一層適切なものとなったように思われる。

さらに、ある疾患の病因が不明の場合、どういう点が問題であり、現在、どのような方向へ進展しつつあるかを明らかにし、学生の学問的興味をひき出すことも重要であるが、本書では「概念」あるいは「病因」

などの項目において、これらの点についてもゆきとどいた記述が行なわれている。

従来のわが国の卒前教育では、治療に関する教育がきわめて不十分であり、このことは医師国家試験において治療についての問題の成績が一般に悪いことに反映されている。今回の改訂にさいし、治療の点について初版以上に十分な配慮がくばられており、このことも本書の大きな特色のひとつであろう。

紙質も初版に比べよくなっており、模型図なども一層みやすく、かつ分かりよくなっている。特筆すべきことは、現在の社会状況下において、値下げが断行されたことであり、画期的なことといえる。

今回の改訂版はおそらく初版以上の“爆発的人気”を維持してゆくものと期待される。

B 5 頁 888 図 104 表 199 写真
20 1976 ¥8,200 ㊦300
医学書院刊